

基本目標 2

福智町への新しい人の流れをつくる

目標の転入出者数にはわずかに及ばなかったものの、観光入込客数やイベントの交流人口は目標を達成。2期目はさらに観光に注力し、イベントに集客するだけでは無く、日常的に町を訪れる人を増やし、経済効果を挙げることを目標に変更。創り上げた地域資源を生かしながら、経済への還元を目指していきます。

目標 (第1期)

- 転入者:年間800人以上 → 795人
- 転出者:年間800人以下 → 817人
- 観光入込客数:51万人 → 59万人
- イベント等の交流人口:5万人 → 5万人

結果

新規目標 (第2期で新たに設定した目標)

- 創出観光入込客数:120万人以上
- シンボルイベント経済効果額:1億円以上



基本目標 3

結婚・出産・子育ての希望をかなえる

就業率は目標を達成したものの、15～49歳の年齢別出生率の合計を示す合計特殊出生率は目標を下回る結果に。2.0を下回ると人口減とされますが、全国的には1.4前後で推移しているため、比較して高い数値ではあり明るい材料の一つです。

目標 (第1期)

- 若年層の就業率:80% → 82.7%
- 合計特殊出生率:1.8 → 1.6

結果

新規目標 (第2期で新たに設定した目標)

- 合計特殊出生率:1.7



基本目標 4

時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する (第1期目標) ↳ 誰もが安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる

国の基本目標改訂に合わせ、2期目では高齢者などより幅広い世代が対象となる内容に基本目標を変更。ふくちのちは「小さな拠点」として順調に集客できており、現在では来館50万人が目前に。2期目は家庭学習実施率だけでなく、正答率を目標に設定し、より成果を重視した内容となっています。

目標 (第1期)

- 「小さな拠点」来場者:30万人 → 30万人 (2年で達成)
- 小学生家庭学習実施率:95% → 92.8% (H26年85.9%)
- 中学生家庭学習実施率:90% → 90.4% (H26年81.2%)

結果

新規目標 (第2期で新たに設定した目標)

- 全国学力・学習状況調査における正答率40%未満の児童・生徒:25%以下
- 高齢者の要介護認定率:20%以下



Column

KPI (重要業績評価指標)

「Key Performance Indicator」の略称で、施策ごとの進捗状況を検証するために設定する指標。基本目標の下に分野別のKPIを多数設定することで、各施策や課題や効果をより深く検証しています。

KPIの例

- 全国的先駆的事業の実現:1事業以上
- 保育所待機児童数:0人継続
- ふるさと納税寄附者リピート率:25%以上
- 新たな公共交通網体系での運行開始
- 方城スカイラインの活用と

福智山麓の観光ルート化の実現

基本目標 1

福智町にしごとをつくり、安心して働けるようにする

地域ブランド化につながる特産品開発やトライアルの進出支援、ふるさと納税の好調で、一定以上の成果を達成。さらなる活性化を図る第2期では目標を上方修正し、就業者・創業事業者数については第1期の倍となる数字を計上。さらに納税関連の生産にとどまらない、町の事業全体での売上目標を設定しています。

目標 (第1期)

- 雇用創出数:100人 → 230人
- 創業事業所数:5事業所 → 9事業所
- 生産販売額:5億円創出 → 23億4千万円

結果

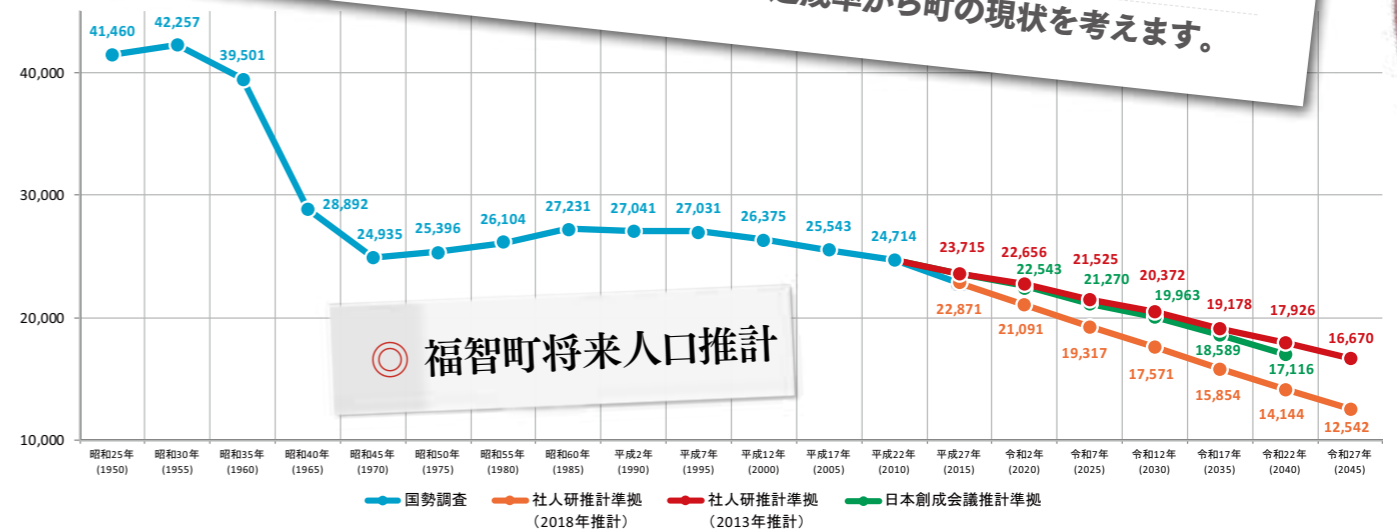
新規目標 (第2期で新たに設定した目標)

- 新規就業者:200人
- 創業事業所数:10事業所
- 事業創出売上額:15億円



数字から見る福智町のこれまでと

策定された総合戦略は、目指すビジョンの実現に向け、施策の目標を具体的な数値で定めていることが特徴の一つ。ここでは1期目5年間の設定目標とその達成率から町の現状を考えます。



上の表は「第2期福智町人口ビジョン」の一部で、町の人口の将来推計を示したものです。最盛期に4万人を超えた人口は炭鉱閉山とともに下降の一途をたどり、現在は約半数まで減少。各調査では今後20年でさらに半減する可能性を指摘しています。この状況を踏まえ、総合戦略では4つの「基本目標」を軸に、各施策ごとに細分化した具体的な数値目標(KPI)を設定。第2期では1期目の成果を検証しながら、より効果的で現実的な目標を選定しています。また第2期の目標年次である令和6年度において、実現すべき結果(アウトカム)を重視した数値目標を設定。これは結果を残すだけでは無く、そこに至る過程も重視する考え方で、計画策定の基本的方向となっています。毎年約3万人を集客するシンボルイベント「福智スイーツ大茶会」、4百年の伝統を誇る「上野焼」や町の象徴「福智山」など代表的な地域資源を生かすだけでなく、封鎖中の「方城スカイライン」の活用など、広い視点で町の可能性を模索しています。